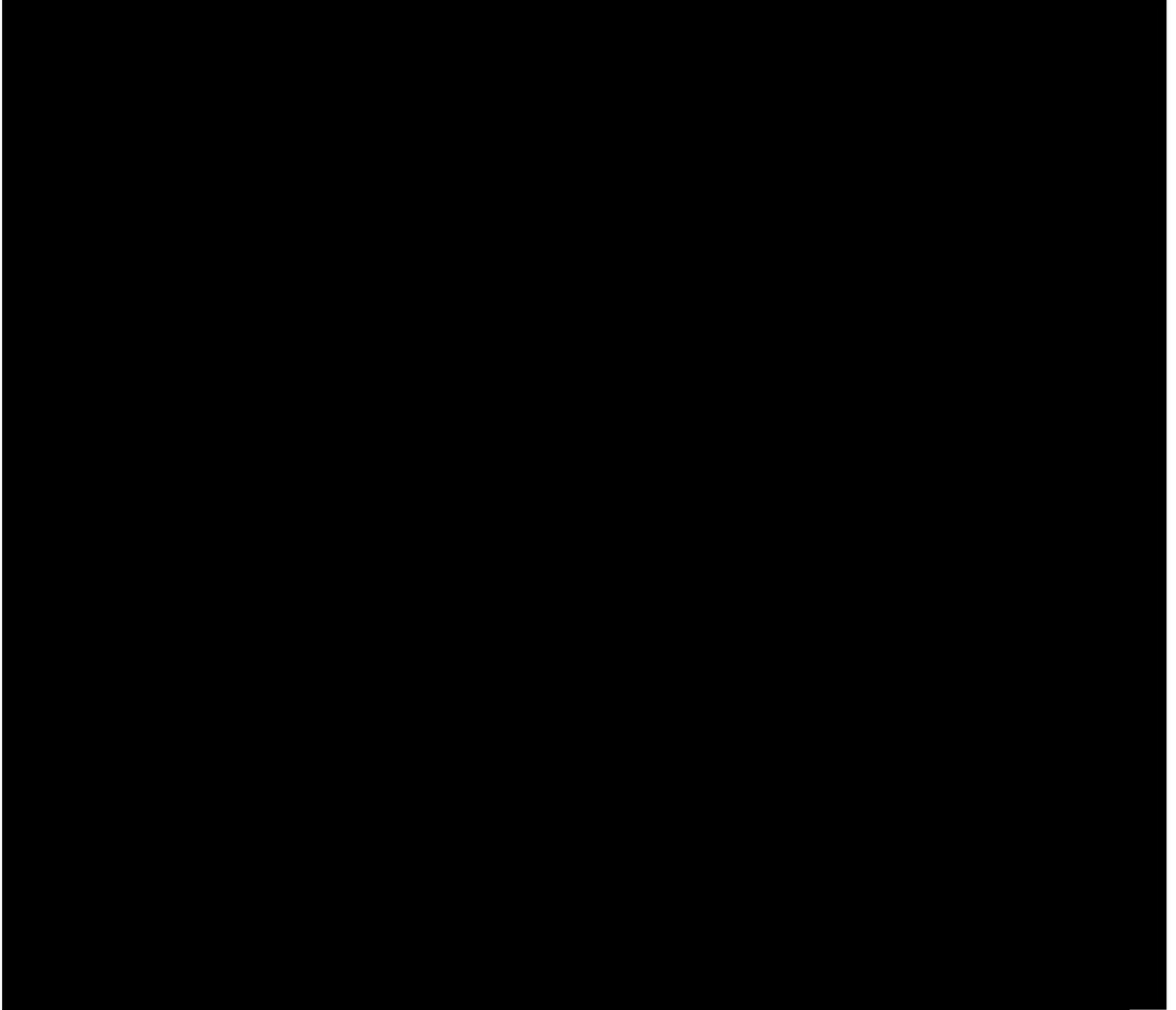


長崎市宮松山陸上競技場の歴史的・文化的価値についての調査等に関する請願書

2025年2月19日

長崎市議会議長
岩永 敏博 様

請願人 (住所) (氏名) (連絡先電話)



長崎市大手2丁目17-46 (代表) 池和和恭
紹介議員 長崎市議会議員



中西敦信

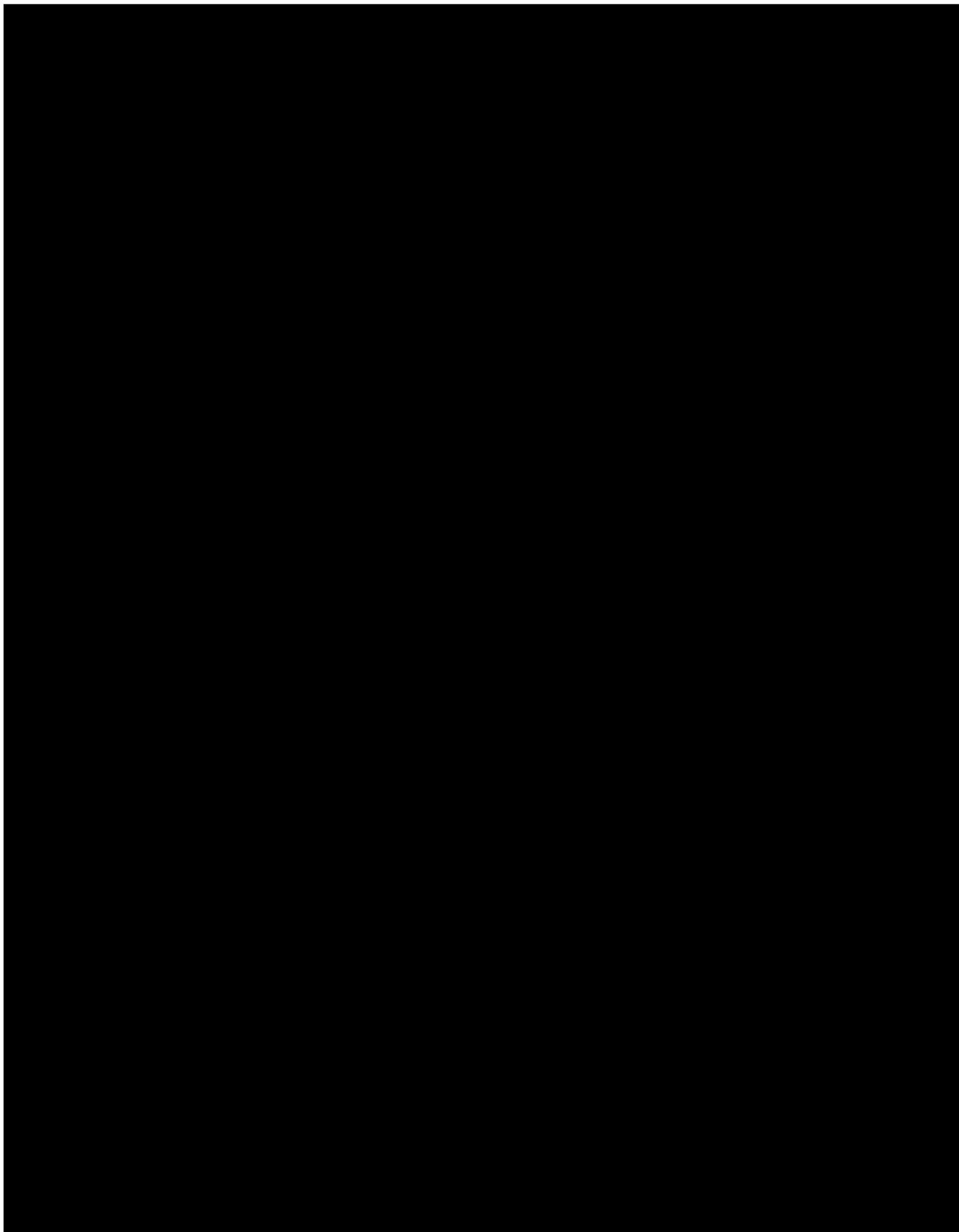


(長崎市宮松山陸上競技場の歴史的・文化的価値についての調査等に関する請願書 請願人続き)

請願人 (住所)

(氏名)

(連絡先電話)

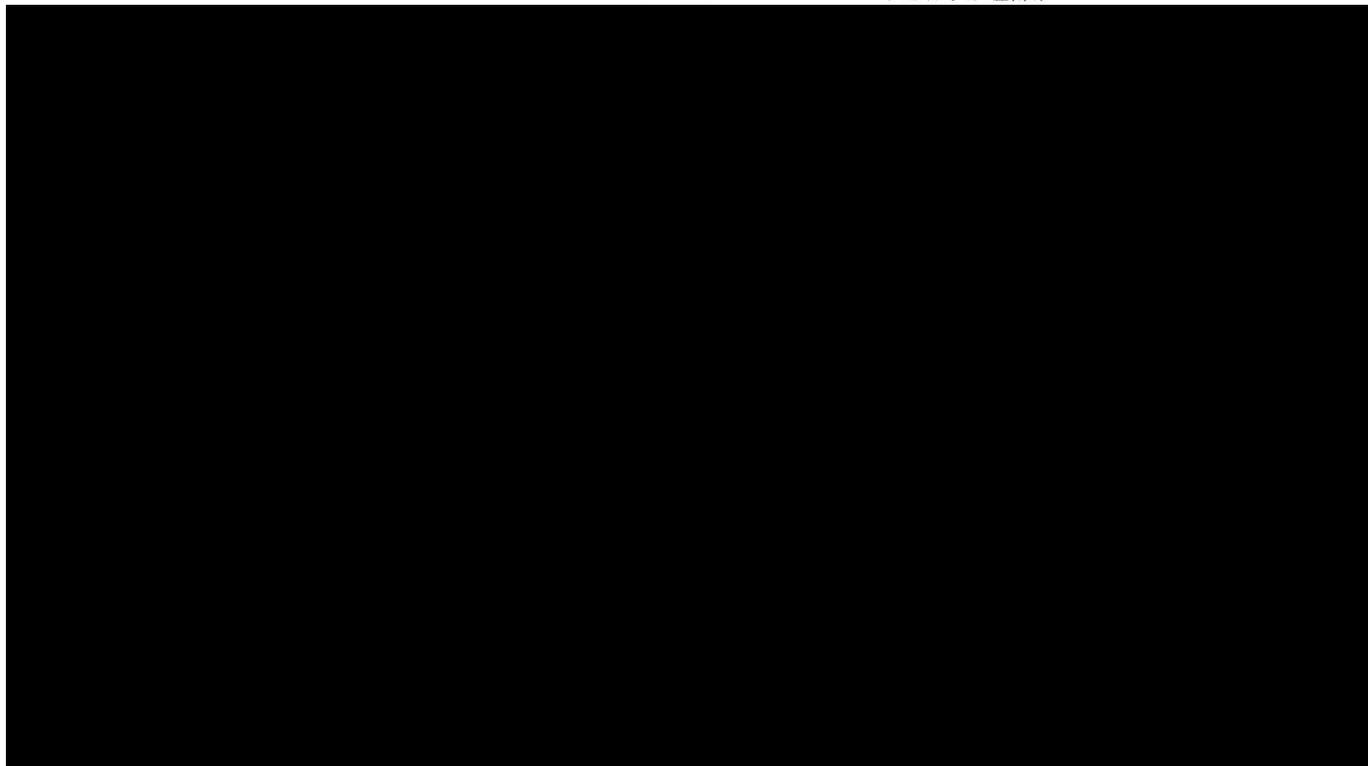


(長崎市宮松山陸上競技場の歴史的・文化的価値についての調査等に関する請願書 つづき)

請願人 (住所)

(氏名)

(連絡先電話)



長崎市営松山陸上競技場の歴史的・文化的価値についての調査等に関する請願書

1 請願の趣旨

平和公園の一角である長崎市営松山陸上競技場一帯は、①爆死者の遺骨、②被爆した建物の一部、③原爆投下の照準点、④「アトミックフィールド」の 4 点で、原爆被爆の歴史を物語る貴重な公有施設敷地であり、世界に平和の大切さを訴える長崎市と長崎市民にとってのみならず、世界的にも希少な歴史的・文化的価値を有すると思われまます。公益財団法人長崎平和推進協会の写真資料調査部会長として、原爆前後の写真資料の収集・検証を続けている松田斉さんも調査の必要性を訴えています。

① 爆死者の遺骨

松山陸上競技場(原爆投下時は三菱陸上競技場。現在より約 50m南に位置)一帯の旧駒場町では約 230 世帯、昼間人口 3700 人余りが暮らし、全員が原爆で亡くなっています。競技場は爆心地から約 110m~250mの至近距離にあり、現競技場のうち北側(市道寄り)には商店兼住宅や三菱造船などの寮が立ち並んでいました。また、競技場の器具保管庫の地下が避難場所になっていたとの証言もあります。原爆投下後の浦上川には水を求めて亡くなった無数の犠牲者の遺体が浮かび、陸上競技場一帯も阿鼻叫喚の地獄絵と化しました。

競技場では、一帯の居住・勤務者以外に、周辺の多くの人々などが茶毘に付され、原爆投下の 2 カ月近く後に進駐米軍が簡易飛行場「アトミックフィールド」を造成した時は、遺骨混じりの瓦礫土がブルドーザーで一気に均されるのを見て、住民たちの泣き叫ぶ声が上がった、と証言記録にあります。1948 年から現在の市営ラグビー・サッカー場の場所に市営長崎競輪場の建設工事が行われた際には、「現場のいたるところから身元不明の遺骸がごろごろ発掘され…、骨片はかます 3 袋分もあり、浦上川で清浄したのち、駒場町納骨堂に安置された」と、駒場町町内会の滝川勝副会長(当時)の談話がやはり証言記録集に残っています。

こうしたことから、松山陸上競技場の地中に未だに少なくない数の遺骨が眠っているということは、容易に推定されるところです。(注1)

② 被爆した建物の一部

長崎市における被爆建造物の取り扱い基準は、原爆のすさまじさを伝える痕跡があるものや、当時の被爆状況を社会的に訴えるものなどを保存対象としています。

現時点で、市は松山陸上競技場を「被爆建造物」に指定していませんが、同競技場の地表には被爆建物のレンガとみられる赤い塊が露出、戦前のものとみられる漆喰(しっくい)の付いた石材が緑地帯の縁石として使われたり、場内の一角に積まれたりもしている(2024 年 7 月 21 日付毎日新聞)。長崎平和推進協会の松田斉・写真資料調査部会長は「被爆した建物の基礎や瓦礫(がれき)、まちの痕跡がこれだけ大規模に埋まっている場所は他にない。貴重な場所だから、市はきちんとした調査をまず行うべき」と強調しています。

③ 原爆投下の照準点

松山陸上競技場が「被爆の証人」として歴史的に極めて貴重と考えられる別の重要な理由に、原爆投下時の照準点だったという事実があります。これは 2024 年 12 月 14 日付の毎日新聞も報じていますが、米国のノンフィクション作家、ジョン・トーランド氏のピューリツァー賞受賞作「大日本帝国

の興亡」に、記されています。なお、同書は、原爆投下時の米大統領・トルーマン氏をはじめとした多くの人物にインタビューするなどしてまとめられ、信憑性が非常に高いものと言えます。「大日本帝国の興亡」は次のように記しています。

「午前 11 時、レーダーに長崎が現れた。『つかまえたぞ、町が見える』。爆撃手のビーハンはスウィニーに叫んだ。結局、彼は肉眼によって爆撃できるわけだ。雲の切れ目を通して、彼は浦上川ぞいに野外競技場の円形の縁を認めた。それは予定の爆心点より 3.2 ㎞も北西に寄っていたが、しかたなかった。彼は十字線の照準を競技場に合わせた。その数秒後の午前 11 時 1 分、機は急角度で上昇した」

また、物理学者・オープンハイマーとともにマンハッタン計画の中心人物だった陸軍少将・グローブスの回想記「原爆はこうしてつくられた」の中でも、「爆撃手のビーハンは谷間の競走トラックに照準を当てた」と記載されています。

このうち「大日本帝国の興亡」には、長崎の被爆者たちへのインタビューに基づくと見られる描写がありますが、市民有志が同書の内容の信頼性をさらに確認するため、登場する被爆者 6 人＝森本繁(重)義、岩永肇、深堀妙子、東海和子、秋月辰一郎、小佐々八郎さん＝について、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館と長崎原爆資料館に残された 4 人の証言記録とを照合したところ、同書の記述内容と合致していました。森本さんと深堀さんの直接の証言記録は平和祈念館と原爆資料館で見つけることはできませんでしたが、森本さんについては、市内在住の縁者の話で、森本さんがトランドの著作に記載されている通り、広島と長崎で 2 度原爆に遭ったことなどが確認されました。

B29 爆撃機「ボックスカー」による照準点が現在の松山陸上競技場のどの位置に当たるのかは、米側の写真記録などと照らし合わせて計測でき、その位置に識別マークを打てるはずですが、それは、核兵器の都市への投下という人類史上二度と繰り返してはならない大残虐犯罪の「告発証人」であり、同時に、戦争当事者同士、そして世界が悲しい歴史を乗り越えて核兵器のない社会を目指して第一歩を始めた貴重なメモリアルとも言えます。長崎にとっても、世界にとっても、全力で保存活用すべき場所ではないでしょうか。

④ 「アトミックフィールド」

「(1945 年)9 月下旬から、進駐してきたアメリカ軍のジープが走り回り、10 月になるとブルドーザーが駒場町にうなり声をあげはじめた。瓦礫をはねのけ、機械の残骸や防火水槽を押しつぶし、三菱陸上競技場のコンクリート・スタンドをダイナマイトで吹き飛ばして、一筋の大きな道をひらいていった」(証言記録集)。松山陸上競技場にはこの簡易飛行場「アトミックフィールド」の残骸が埋まっている可能性も十分あります。これは原爆投下のほぼ直後と言っていい時期にグラウンド・ゼロの地に進駐米軍が造ったことから、原爆に密接に関わる戦争遺跡、占領遺跡とも言えるでしょう。発掘してその一部を展示することも考えられます。

(注1)

▼「原爆体験記集 91」(国立平和祈念館) 田川末弘さん(当時、三菱養成学校生)の証言

「城山寮へ行く途中、駒場の陸上競技場の橋の近くの床屋の焼け跡に髪の毛の長い少女が片足は膝下が無く、一方の足は焼けたまま横たわっていた。浦上川には水の中に顔を突っ込んだまま夥しい人々が死に絶えていた」

▼「同 97」津田定二さん(当時、県立長崎工業学校生)の証言

「すさまじい破カイで何んにもない。浦上川の川底におりた。川の中を見て何が起きたか、頭の中が眞白になった。そこにはすさまじい光影がテンカイされていた。何千いや何万かもしれない」

▼「証言 1989年3集」中野喜三郎さん(当時、食糧営団本部社員)の証言

「根株のほかに草木は一本もない。松山町方面の死骸は、木炭そのものである。犠牲者の真っ黒な死体がゴロゴロと低地から丘の起伏にそって散在し、きわめて異様な視界が続いている。身内の人を焼くための茶毘か女性が二人いる。ふと、思わず足を留めた。母が幼児にお乳をふくませている姿。そのままの黒焦げ死体ではないか。ムゴイ。あまりにもムゴイ目の前の光景である。母親は乳飲み子をあやしなげながら、子守唄でも歌って寝せつけていたのではあるまいか。母と子の、慈愛にみちたシアワセな姿…。今の今まで幸福であった二人。生死の境を一瞬にして変えてしまった母と子。何とムゴイことであろうか。…ますます死骸の数は増し、男女の区別もつかない。真夏日のこの暑さである。焼け爛れた体、呻き声、泣き叫ぶ声、救いを求める手、蠅までが無数に飛び交う。道路も、河の中も、大橋の上も、死人が怪我人が溢れ戦っている修羅場であり、地獄である」

2 請願項目

長崎市営松山陸上競技場(旧三菱陸上競技場)一帯は、原爆投下の照準点となった場所であり、原爆が松山町上空 500 メートルで炸裂した中心域「グラウンド・ゼロ」にあります。阿鼻叫喚の場と化した所で、いまだに少なくない被爆死者の遺骨が眠ると見られる「聖地」です。また、敷地内に残存する被爆瓦などの遺構遺物は被爆の痕跡と社会状況を示すと考えられるうえ、地中には原爆投下から 2 カ月近くの時期に進駐米軍が造った簡易飛行場「アトミックフィールド」の一部も埋もれている可能性があります。このような理由から、世界的に見て歴史的・文化的に極めて希少な価値を有するものだと言え、専門家や研究者も調査・現状保存の必要性を指摘しているところです。日本被団協(日本原水爆被害者団体協議会)がノーベル平和賞を受賞して、長崎の発信が世界から一層注目されている折、私たちは、少なくとも市がまず早急に慎重な現地調査と資料検討、精査を行い、その結果を公表するよう強く要望します。